

令和3年度箕面国有林におけるニホンジカの生息状況外モニタリング調査報告書 —概要版—

令和4年3月
(株)野生動物保護管理事務所

GPS テレメトリー調査

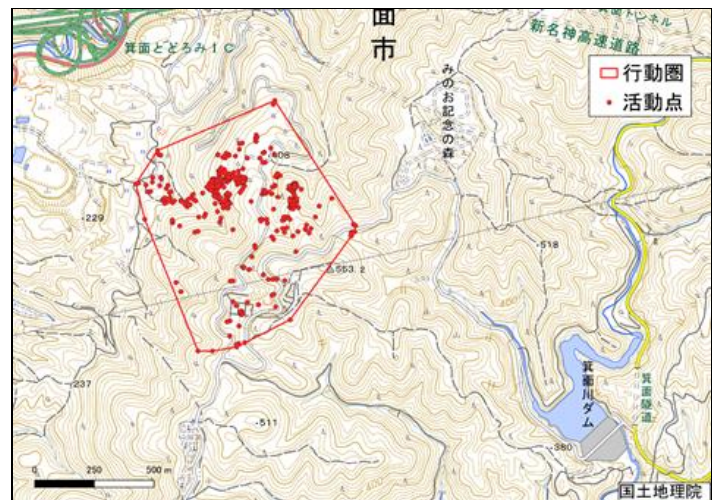
シカの行動特性を把握することを目的に、シカ1頭にGPS首輪を装着し、行動状況等について分析を試みた。

結果

- ・シカの成獣オス1頭にGPS首輪を装着した。
- ・捕獲個体は狭い範囲(0.61 km²)で活動していた。



捕獲個体



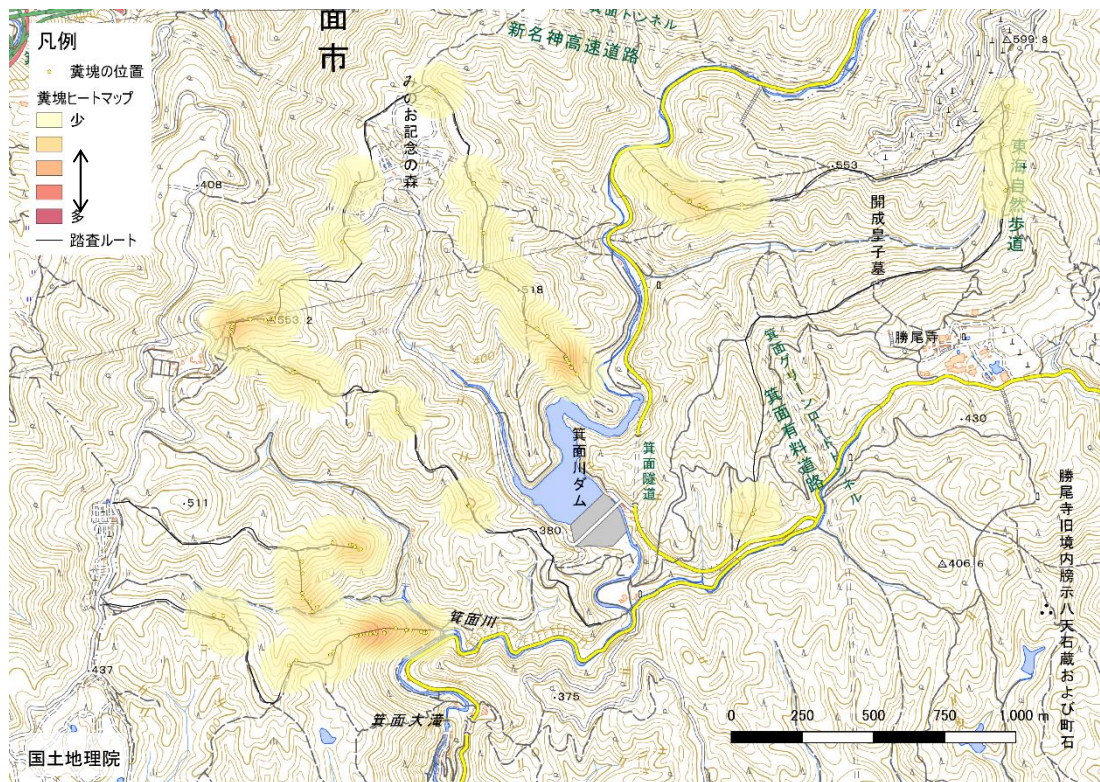
捕獲個体の活動点と最外郭行動圏

糞塊密度調査

令和2年度からシカの生息動向を把握することを目的に、糞塊密度調査を開始した。糞塊密度調査は、国有林の主要な尾根を踏査し、10粒以上の糞塊の位置とルート別の個数を記録した。

結果

- ・箕面国有林全体ではシカの糞塊が少なかったが、一部の地域に糞塊が集中していた。
- ・国有林全体では、糞塊密度が昨年度の11.21個/kmから7.59個/kmに減少していた。



確認された 10 粒以上糞塊の位置

ルート別糞塊密度

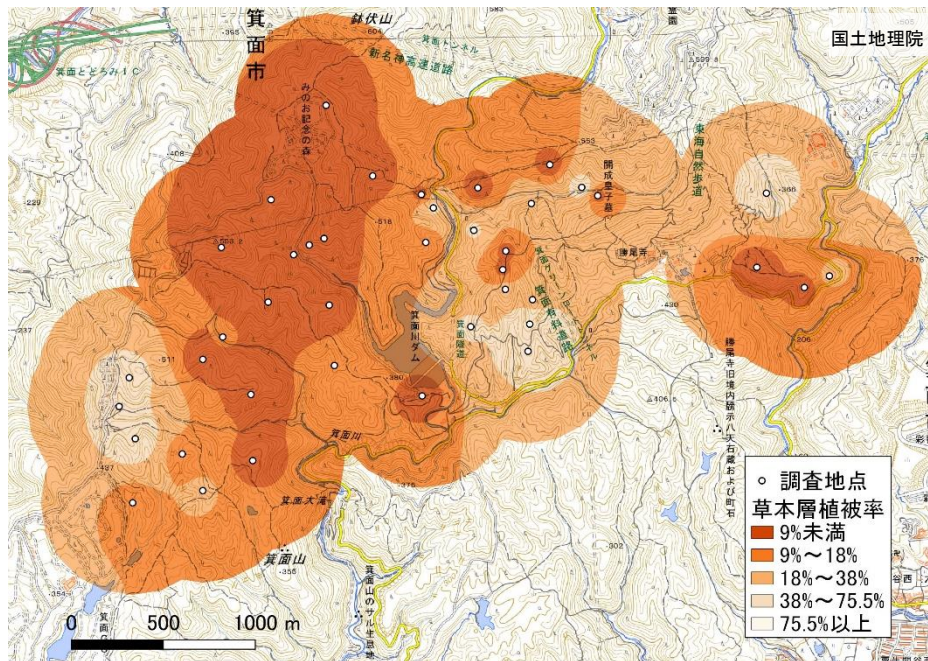
ルート No.	10粒以上糞塊数	距離 (km)	糞塊密度 (個/km)	昨年度糞塊密度 (個/km)
1	35	4.81	7.28	3.89
2	14	3.79	3.69	4.08
3	37	2.73	13.54	30.31
合計	86	11.33	7.59	11.21

ニホンジカによる森林植生衰退状況調査

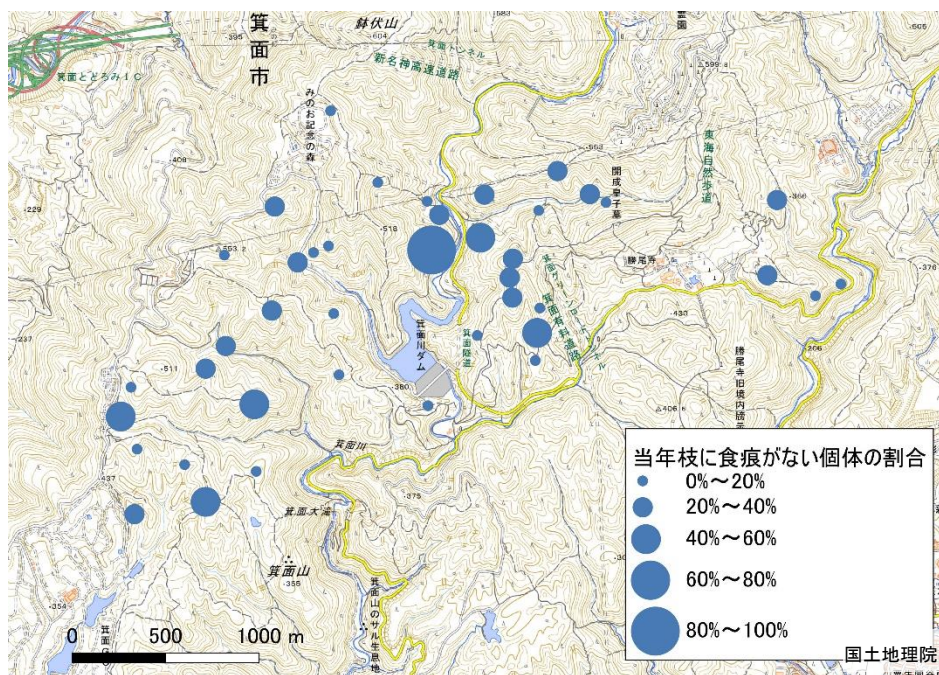
箕面国有林のシカの影響を広域で把握することを目的に、箕面国有林全域において森林植生衰退状況調査と食痕履歴法による調査を行った。

結果

- ・調査は 41 地点で実施し、草本層の植被率が低い地点は道路等から少し離れた地域に多かった。
- ・清水谷周辺など捕獲が進んでいる場所では、草本層の植被率が高い傾向が見られた。
- ・食痕履歴法により、過去は毎年採食されていたにもかかわらず、今年シカによる採食がなかった樹木が確認された。
- ・清水谷および箕面川ダム周辺では、今年シカの採食を受けなかった樹木の割合が多く、捕獲の効果が表れていることが示唆された。



草本層植被率の IDW 法による空間補間結果



毎年採食されていながらも当年枝に食痕が無い個体の割合

固定プロット森林影響調査

今後のモニタリング調査地点とするため、森林植生衰退状況調査を実施した調査地のうち 24 カ所に固定プロットを設置し、多様性植生調査法を実施した。

結果

- ・シカの影響が顕著にでる第 2 低木層と草本層において植被率が低く、さらに出現種数は極めて少なく、シカの影響が深刻であることが示唆された。

植生タイプ別の平均階層高、植被率

植生タイプ		スギ・ヒノキ人工林		落葉広葉樹林	
調査区数		16		8	
高さ(m)	高木層	20.0 ±	2.45	19.5 ±	5.01
	亜高木層	10.0 ±	1.0	12.3 ±	1.75
	第一低木層	4.9 ±	1.21	5.9 ±	0.83
	第二低木層	1.5 ±	0.57	1.9 ±	0.23
	草本層	0.3 ±	0.16	0.3 ±	0.14
植被率(%)	高木層	91.3 ±	14.43	83.8 ±	20.66
	亜高木層	2.9 ±	9.98	73.1 ±	24.04
	第一低木層	8.6 ±	15.11	41.9 ±	21.03
	第二低木層	9.8 ±	15.45	8.7 ±	4.70
	草本層	10.3 ±	11.80	0.9 ±	1.70

植生タイプ別の平均胸高直径 (DBH)、平均密度、平均出現種数

植生タイプ		スギ・ヒノキ人工林		落葉広葉樹林	
調査区数		16		8	
林冠木平均DBH		25.8 ±	6.4	30.3 ±	11.4
林冠木平均密度(100m ²)		9.3 ±	2.0	4.3 ±	2.2
平均出現種数 (全階層)		35.0 ±	11.6	21.5 ±	7.3
高木層		1.5 ±	0.8	1.9 ±	0.6
亜高木層		0.2 ±	0.4	4.3 ±	2.1
第1低木層		0.6 ±	0.9	3.0 ±	2.1
第2低木層		1.9 ±	1.8	3.0 ±	2.1
草本層		34.3 ±	12.4	18.1 ±	9.5